

鴨居のどんど焼

藤井 豊治

本会会報第5号に野比海岸で行われたどんど焼二例と歴史散歩の
会会報第35号に須賀谷のどんど焼を紹介したので、今回は昭和
六十年一月十五日に行われた鴨居のどんど焼をご紹介します。
なお、市内では前記の外、長沢の入と峰・久里浜・岩戸等でも行われて
いるようです。

約五十人位の参加者が集まり、石黒幸雄先生の道祖神・小正月の
行事・子供組等の説明があり、予備知識を勉強してから行事の見学
に参加したので参加者は喜んでいました。私は地元の小松さんにお
話をきいたのでその模様を報告します。

調査日 昭和六十年一月十五日(火)

話者 小松三良 年齢 六十三歳 鴨居三一七一二

名称 さいと

場所 横須賀市鴨居 字宮下(八幡神社下の海岸)

子供組 今はない

主催者 八幡神社氏子会(九町内・協方・北方・宮原・東・

腰越・三軒谷・中台・小原・梅山)

宿作り 今はない

材料集め 正月七草すぎに回覧を廻し、八幡神社境内に材料の

正月飾り等を集める。当日持って来る人もいた。

御神木は、前の日曜日に氏子の農家の山から笹等と

一緒に頂いてくる。

さいと組み 氏子会で前の日曜日(今年は一月十三日)に行った。

高さ約五米・根廻し約四米半

別にとらない。

賽銭

今はなし。

清め

さいとの廻り四か所にかけて、町内の方にも茶碗につ
いで差し上げる。

御神酒

朝八時に宮司が御神酒とさいとを拝み、神社から火
種を持って来て、ごぼう締めと御神燈(町内会長が

竹筒の中に油をしみこませた綿を入れたもの)に火

を移し、さいとに火をつける。

御利益

無病息災(風邪・病氣)と家内安全。

復活

四、五年前から行った。

中止

昭和十九年か昭和二十年と思う。

ふれ

回覧板で行う。

餅焼き

二、三人が餅を焼いていたのみである。焼けばく
いを拾う人も見当らなかった。

以上が今回の聞きとり調査ですが、鴨居の「さいと」として、故

高橋恭一元横須賀文化財協会会長の報告が『横須賀市博物館研究報

告(人文科学)第3号(一九五九年三月三十一日発行)』『三浦半島民俗

控帳(二)』にありますので併せて紹介します。高橋先生のは文章で書

かれておりますが、私の調べた項目に当てはめて抜き書きしました。

子供組

正月四日から「さいと子供」として中学一、二年生の
男子を頭に小学生男子の子供らが、三人、五人と組

をつくり、思い思いに手分けして、各戸に取り除い

昭和六十一年一月十五日
横須賀市鴨居
小松三良

材料集め

た飾を集めにまわる。

そして、これを海岸の一定の場所に集積して置く。

これがその年の「さいと」焼きの第一歩で、毎日のように、子供は学校から帰ると集めあるく。

さいと組みの準備

長さ十メートル余もある孟宗竹の先端に、赤・白・青

・黄・紫などの色紙で大きな御幣を作り、十三日の夜

から「さいと子供」全員でこれを担いで各戸を廻り、これを各戸に入れ、「ゆわわっせ、ゆわわっせ、せ

(さ)いと神をゆわわっせ」と声をそろえてさわぎたて、この御幣をゆすってはさわぎたてる。これを

「おんべ」と呼んでいる。各戸では祝う気持で若干の金員を子供たちの頭株に与える。金をやらなければいつ迄もさわぎつつけている。

(祝儀)

十四日の夕やみ迫るころ(最近は大入の手すきの時)

(悪口)

子供たちは全員揃って「せいと組んでけらっしえ、

〇〇〇〇(他部落名)組んだぞ、おらははおそいね」と声を合せてとなりあるく。

さいと組み

そこで大人たち(主として若者たち)が浜に出て、直径十五センチぐらいの生松を枝葉のあるまま中心として立て、これを心棒として廻りに集められた竹・

松をはじめ正月飾りの一切をまとめ大きな円錐形の塔を作りあげ、例の「おんべ」を中央に立てる。

この塔の高さ十メートル以上もある。

さて、これが出来上ると、数年前までは子供たちが裸となり寒中海に飛び込み、各自海底の砂を手

に、

点火準備

まず、出来た「さいと」にぶっつけて「せいとがよくもえるように」と真剣そのものに祈り、更に砂を手

に裸のままかけ足で部落の社に同様な祈りを捧げ、持った砂を社前に置いて帰り、洗場に飛び込み入浴する。(現在は行われていない。)

ふれ

入浴後、子供たちは一応帰宅して仮睡する。夜中に起きて「さいと」に集まり点火の準備にかかる。(しかし準備することとてなく、只さわぐばかり。)

点火

十五日朝五時頃ともなれば、また子供らは隊を組み「せいともつけてけいらっしえ、〇〇〇〇(他部落名)

あと始末

もつけたぞ、おらははおそいぞ」と、声高らかに朝の静けさを破りながら部落内をあるきまわる。

そこで青年たちは、浜に出かけて「さいと」に点火する。たまたま子供たちは、燃え終らないうちに「ちんちとばんばともち焼きこうらっしえ」と、となりあるく。

すっかり燃え終ると若者は火のあと始末、子供たちは宿と呼ぶ家(年々 適當の家に依頼する)に集まり、各自持参の茶碗、箸などで朝食を共にして解散する。これで四日以来の「さいと」行事も終了するわけである。

高橋先生がお調べになった時より三十年を過ぎました今年(昭和六十年)、「さいと」は復活したものの行事内容も時代と共に変わって来ましたが、お父さんは子供に自分の行って来た行事内容を伝え、昔の様に子供にも仕事を与えて、次の鴨居を守る若者になってもらったら、もっとすばらしいのではないかと思いました。